

## 細江カトリック教会だより 11月

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294 ㊟083-222-0970

広島教区テーマ：平和の使徒となろう

チャレンジ新しい福音宣教 ～わたしをお使いください～

—家庭へのチャレンジ—

### 「紅葉の時期」と「死者を思う時期」が 重なる11月から学ぶこと

秋が深まり、紅葉の季節になりました。周りの木々も緑色からだんだん黄色と赤色に変わりつつあり、公園などできれいな紅葉の風景を楽しむ人々も増えてきました。

私自身は季節の移り替わりをあまり感じない地域に生まれたのですが、日本に来て感じた一つは季節によって変わっていく人々の生活のリズムでした。暑い夏から寒い冬へのこの移り変わりに生活のリズムを合わせるのは最初は大変でしたが、その中でも一つの楽しみはきれいな紅葉を見ることでした。そんなある日、紅葉を観に行

った公園で偶然出会ったあるおじいさんと紅葉の美しさについて話したら、「紅葉の季節には楽しい一面もあるが、その一方でちょっと悲しい一面もある」ということを教えてくれた。それは、赤い色や黄色い色で素晴らしい景色を見せてくれている木々の葉ですが、これらの葉が全部かれている最中であり、しばらくしたら木はこれらの葉を全部落としてしまうという話でした。それゆえ秋の季節はその美しさよりも、ある種の空しさを思い出させる季節であると彼は話していました。これを聞いて私は初めて秋の素晴らしい紅葉の景色に含まれている空しさという次元について考えました。

同じようにどんなに輝く人生であっても、いつの日か幕を閉じ完全に消えていくのだと思うと、人生の空しさを感じない者がい

ないでしょうか。確かに秋の季節こそは、地面に落ちて土になっていく葉と同じように、消えてゆくはずの人間の人生の空しさが一番よく表す季節であるといえるでしょう。

多くのところで、秋の季節は収穫の時期でもあります。秋の収穫をもって農家の人たちは一年の農作業を終わるのです。このような一年の活動の終わりに感謝の気持ちをもって自分たちの祖先を祭る、死者を祭るなどの習慣も、古い時代からの伝統としてありました。これらの習慣をのちに広まったキリスト教が受け継いで、「死者の日」となりました。



しかし死者を祭る習慣を受け継いだキリスト教は、人々の死者に対する考えを大きく変えたのです。死者に対するそれまでの考えとキリスト教の教えとの違いは、死者とはかれた葉のように落ちて消えていくものではなく、復活を通して永遠の命を得る者であるという教えにあります。言い換えれば死に打ち勝って復活した神の子イエスによって、すべての人はその永遠の命を受け継ぐことができるようになったということです。死が終わりではなく始まりであるという希望をもたらしたのです。これこそ死者にとって復活の希望であり、または生者にとって生きる希望でもあるといえるでしょう。

ジェームス・ボニー神父

## 家庭へのチャレンジ VII

安岡地区

この10月11日に父母の13回忌、3回忌を致しました。

教区のテーマ「家庭へのチャレンジ」という地区だよりを思案している中、大正生まれの両親のことを思い出しました。

私は山口市で中学時代を過ごし、数名のクラスメートと教会へ通い、その後細江教会で高校2年の6月、ひとり受洗しました。その時親の反対がなかったことをずっと感謝しています。母は白いワンピースを縫ってもくれました。二十歳の2月のこと、教会からの帰路、夕方の豊前田で大分からの女子中学生と出会い、彦島の私の下宿で一晩過ごし、家に帰りたくないという彼女を山口の両親の家に伴ない、預けて下関に戻りました。父母は1週間彼女を滞在させ、亀山の教会の神父様と連携し、迎えに来てくれた大分の中学校の担任の先生に彼女をゆだねました。

長崎大村で義父の葬儀のとき、私どもの子ども幼稚園児の2人の手を引き、教会の葬儀に参列し父が感動していたことも思い出されます。

平成25年12月30日、前日まで元気だった母が倒れ、入院8時間で死去し、窓外は年末年始のため1月4日となりました。その間、自宅で亡き母と5日間過ごしました。朝夕母のために祈り、葬儀後もひと月間、朝晩、毎日母のために祈る時間を持ちました。ともに祈ってくれる家人がいることに感謝しました。

9月、10月と教会で、葬儀が続きました。亡くなられた方の人生と天国への道を考えます。死者の月11月を迎えるにあたり、限られたこの世の時を感謝とともに過ごさなくてはと思うのです。家庭での信仰は感謝と思いやりにあると思います。亡き両親から思いやりを受けました。このことを子供たちも知っていると思っています。



## 青海荘訪問 10/3 (土)

\*可愛い子どもたちの日舞を見つめるおじいちゃんとおばあちゃんたち。



\*子どもたちの先生である池田さんも本格的な舞を披露。



\*アンパンマン体操と、「大きな栗の木の下で」と「幸せなら手をたたこう」を皆さんと一緒に。



\*インドの歌と踊りを練習していないので・・・「四季の歌」の詩を朗読するボニー神父。



## 巡礼ウォーク 10/18 (日)

昭和20年6月29日と7月2日、下関は大



規模な空襲により細江町から江戸・田中町までが焼きつくされ、1300人以上の死傷者が出ました。特に、幸町の高台（現・幸町保育園）に避難した70人以上の人々が一度に犠牲となりました。今はそこに犠牲者を悼む「幸せ地蔵」が置かれています。

10月18日（日）、細江教会からこの「幸せ地蔵」までの約一時間の道のりを、空襲の記憶が残る箇所を巡りながら、平和を祈る巡礼として、百瀬神父さまとボニー神父さま以下ベビーカーの赤ちゃんから80歳を超える方まで18名の参加を得て歩きました。地蔵前でロザリオの祈りを捧げ、平和の使徒となることへの思いを新たにいたしました。

三井 正憲



＊幸せ地蔵前で祈る。

**ペトロ祭 10/25（日）**



＊会場の様子

晴天に恵まれ、みんなの心が一つになって愛の輪が広がった一日でした。

朝早くから餅作りやこの紙面に掲載されてないうどん・喫茶・お楽しみ券・遊休品の係の方々と多彩に活躍してくださった方々、また見えないところでバザー前日から準備をしてくださった方々にも感謝の日でした。ありがとうございました！

そして、お疲れさまでした！



＊モグラたたきゲーム大盛況！

百瀬神父、大活躍。



＊春巻完売しました！

彦島教会 ベトナムの若者チームの皆さま



＊焼きそば！

まかせなさ〜い、若者たちの出番。

＊チチミコーナーでは、彦島教会の美女たちが自分たちのことのように手伝ってくれました。

**感謝！**



**聖書いろはかるた**



## :: 聖書かるた後記 ::

今年で15年目を迎えた10数名の黙想グループの新年会でのことです。お正月らしくかるたが話題にのぼりました。

日向(宮崎)では、子供たちがふるさとを題材に手作りかるたで競技したというものです。かるた作りのために、地域全体が共働、共感、共振し、郷土への愛着や理解を深めるきっかけになったとのこと。教会共同体の活性のためにも、これに倣い「聖書かるた」を是非作りたいものだ、と、だんだん語り口が熱を帯びてきました。

「それは、良い！」のツルのひと声で、気づけば一人四文字、その場で割り当てられていましたが、カメの私たちはまだ何となく他人事でした。しかし、早々さらさらっと四句出来上がった仲間との差を縮めるべく、皆渋々、いえ心を入れ替え、熱心に頭をひねり、弁当持ち込みで推敲に推敲を重ね、ようやく44句が夏休み前に出揃いました。挿絵と解説は百瀬神父様にお任せし、やれやれと思いきや、想定外の予約注文数に嬉しい悲鳴。新たにたくさんの方々の善意と協力を得て、細江教会印刷工房は連日フル稼働。ペトロ祭を前に初版限定100部がなんとか完成に至りました。

寝ても覚めても、繰り返し担当文字をつぶやき、聖書の場面を自分なりに想像し、日頃にも増して(?)聖書を何度もめくり、あれこれみことばを読み返しながら絞り出した十七文字は、今思えば自分自身の信仰告白です。よろこびの共同体を実感できる、思い出話の尽きない楽しいひとときでした。

最後に一句ご紹介します。「子供たちと共に」のコンセプトゆえ、惜しくも選から漏れた、私たちキリスト者にとって絵になる憧れの姿…

『なれかし』と跪くマリアの美しさ

(下関カトリック教会のマルタたち)

## 活動グループ紹介

### ミルトスの会

私は何も知らずミルトスの会に仲間入り

させてもらいました。

日曜ミサ後に信徒の皆さまへ昼食や惣菜等の提供を献金としていただき、世界各地の災害や活動の支援金として送金されていることがわかりました。

また、食事やお茶を飲みながら会話がはずみ、よい分かち合いの場になっていると思うのは私だけでしょうか。

前日や当日早朝から調理してきてくださるメンバーさんは大変でしょうが、これからも賑やかな声が飛び交うミルトスが続けられ、困っている人々に少しでも支援が続けられたらと願っています。

皆さまのご協力に感謝しながら……。

竹中 和美



聖書週間 (11月15日～22日)

～聖書に親しむ～

聖書を開いてみましょう……



## お知らせ

**クリスマスチャリティーコンサート**

**11月28日(土)**  
**14:00開演**  
**細江カトリック教会聖堂**

\*素敵な音楽のひと時をご一緒に!